



五島

浜松市立五島小学校
学校だより

平成22年7月6日

No. 7

～外国語活動 始まっています～

「～できますか。」 Can you ~? 「はい、できます。」 Yes, I can.
「いいえ、できません」 No, I can't.

を Felipe 先生に教えてもらいました。

Felipe 先生は、野球、サッカー、水泳などいろいろできるそうです。

けん玉、一輪車などできないこともたくさんありました。

むずかしいところもあったし、分からなかったこともあったけど、楽しく教えてくれたのでよかったです。また、英語をやりたいです。 (6年 E)

Felipe 先生は、江南中学校の英語 A L T の先生です。

本年度、五島小学校では外国語活動の時間を5年生6年生でそれぞれ20時間設定しています。そのうち、9回来校して担任と共に授業を一緒にやってくださいます。

実は、Felipe 先生、日本語が大変お上手なのです。しかし、授業で子どもたちと接するときはすべて英語です。

先生がゆっくり話してくださいます。

子どもたちは注意深く聞き取ろうとします。

すぐに全てを理解できるわけではありません。しかし、聞き覚えのあるフレーズやジェスチャーで少しずつ理解していきます。

対話練習では、友達とペアを組んで覚えたてのフレーズを試します。Felipe 先生も練習相手をしてくださいます。どきどきしながらの挑戦です。

授業後は、多くの子が「また、英語をやりたい」という感想をもちます。

外国語活動の目標は、次の3つの柱から成り立っています。

- 外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- 外国語活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- 外国語活動を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

一言で言えば“コミュニケーション能力の素地を養う”ことです。



【“Hello. My name is ~” <5年生>】

～暗唱検定 挑戦中～

5月から，“暗唱検定”を始めました。

休み時間を利用して、校長先生の前で暗唱をします。
場所は校長室です。

暗唱の内容は各学年・学級で決めます。多くが国語の授業に関連したものです。

暗唱できれば合格，できなければ，練習し直して再チャレンジです。



「校長室は、めったに行かない場所なので、とっても緊張しました。うまく言えるか不安で途中で、一回止まってしまったけど、頑張って言いきることができました。」

一番最初に挑戦し、合格したMさん（6年）の感想です。

校長室から出てくる子はどの子も「どきどきした」とか「緊張した」と口にします。

きちんと覚えてきても、校長先生の前に立ったとたんに忘れてしまうこともあります。何度もチャレンジを繰り返して合格をもらった子もいます。

【校長室で行うことに効果がある】

校長先生と1対1です。子どもにとっては緊張の場面です。その緊張感のなかでやり遂げることは、達成感、自信へとつながります。

【「音読・暗唱」自体に効果がある】

音読や暗唱練習を繰り返すことは

- ・文字に慣れ、語彙を増やす
- ・脳の前頭前野を鍛え、ワーキングメモリーを鍛える

といったことにつながります。基礎学力の向上にもなります。



本校の重点目標“やりぬく”にも関連します。達成できた喜びをぜひ味わわせたいと思い、指導継続中です。



「地域青少年声掛けバッチ」を配布させていただきます

静岡県教育委員会では、「地域の青少年は地域で育てる」を柱に地域で生活している青少年に、周りの大人の誰もが温かなまなごしを向け、声を掛け、積極的にかかわることを通して、青少年の健やかな成長を支援していこうという「地域の青少年声掛け運動」を展開しています。

大人から進んであいさつする、ほめる、認める、感謝する一言から、かかわりが深まり、時に考えさせたり、注意したり等、地域の大人が様々な声掛けをすることで積極的に青少年にかかわる社会を目指しています。また、以下のような効果も期待できます。

- 地域の子どもは地域で見守り育てるという意識を高める
- 大人が一丸となって子どもたちを見守っていることを印象付ける
- 不審者が入り込む余地を与えない地域づくりのきっかけとなる

この運動は、平成12年11月よりスタートし、現在28万人を越える県民の皆様にご参加いただき、県民運動として育ちつつあります。ぜひ、できる時にできる声掛けからはじめてみませんか。御協力をお願いいたします。

（浜松市青少年育成センター より）

